

件名	定期検査中の柏崎刈羽原子力発電所2号機における原子炉压力容器に接続される配管の閉止プラグ固定用治具の一部損傷について
通報日	平成15年10月21日
概要	<p>当所2号機（沸騰水型、定格出力110万キロワット）は平成15年3月10日より第10回定期検査を実施中（平成14年9月20日より点検停止）ですが、本日16時20分頃、原子炉压力容器内の原子炉再循環ポンプA号機の吸込ノズルの閉止プラグ（仮設）を取り外すために、閉止プラグの状況を水中カメラで確認していたところ、同プラグの固定用治具の一部損傷があることを確認しました。</p> <p>そのため、周囲を確認したところ、シュラウドサポートプレート上に固定用治具のボルト類が落下しているのを発見しました。</p> <p>今後、ボルト類を回収するとともに、原因調査を行います。</p> <p>（注1） 閉止プラグとは、原子炉再循環系配管での作業の際に原子炉内の水が配管に流れていかないようにするための仮設の蓋で、シュラウドとプラグ間に固定用治具を入れて、プラグを配管側に押し込んでいます。</p> <p>（注2） 発見されたボルトの大きさは、長さ4～6cm、太さ6mm 或いは16mm と推定しています。また、ボルトの他にナットらしきものも確認されています。</p> <p>（平成15年10月21日 プレス発表内容）</p> <p>http://www.tepco.co.jp/kk-np/nuclear/pdf/15102102.pdf</p>